

科目：日文作文

系所組：日本語文學系碩士班

次の文章は、子供の養育について論じたものである。これを読んで、以下の問題について考え、日本語の作文を書きなさい。

家族は、生き物としての子供の命を育むとともに、社会の成員として育てる、そういう養育の場所である。だが、それは、社会のルールを仕込む場所としてあるのではない。しつめに先立って、親しくない他の人たちとの契約という社会関係が成立する前提となるべき、他者への信頼というものを育む場所として、それはある。そのなかで人が身につけるべき共存の習慣を、子供は、大人がわざわざ教えなくても大人を見て勝手に学ぶ。だから、大人を見て、そして、大人に見守られて、⁽¹⁾子供が「自然に育つ」ような場を、家庭のうちに、あるいは社会のうちにきちんと用意できているということ、これが「養育」のあるべきかたちである。そして、信頼の関係から契約の関係へと子供が移行してゆく、その媒介となるのが、家族での、地域での生活である。

⁽²⁾「見て見ぬふりをする」と「見ぬふりをして見る」というのは、同じことのように聞こえるが、そのあいだには、実は並々ならぬ温度差がある。

乗客がほかの乗客に「迷惑」をかけられているのに、「理不尽」だと思いながらも、注意した後の展開が怖くて身動きができない。しかたなく「見て見ぬふりをする」。これは、前者の、傍観を決めこむ例である。

家庭の事情で子供が泣きじゃくりながら通りを駆け抜けるのを見て、すぐにでも声をかけてやりたいところだが、その場しのぎの解決にしかならないことを知っていて、だから、だれかれとなく、無茶をしないかと黙って遠目に見ている光景。見ぬふりをしてちゃんと見ているという、これは後者の例である。よほどのことがなければ口を出さない。裏を返せば、よほどのことがあれば、ちゃんと口を出す。路地、商店街といった職住一致の生活空間にはそんな近所づきあいが、ありえた。⁽³⁾「育てる」などと言わずとも、そこにいれば、子供が、「見ぬふりして見る」大人たちに囲まれて⁽⁴⁾「勝手に育つ」、そのような場が。

こうした周囲のまなざしは、やがて子供たちには不快なものになってゆく。この粘りつくような眼差しがとにかく鬱陶しくて、子供はそこから出てゆくことばかり夢見るようになる。だが、何層もある集合住宅に一度暮らしてみても、あるとき、はたと気づいた。見るでもなく、見ないでもない。「見ぬふりをして見る」という⁽⁵⁾グレイゾーンがここでは成り立たない、と。人々の集住のかたちが、町なかという地べたのものではなくて、ビルという立体のものになると、個々の家は鉄の扉で閉ざされ、内の気配はうかがえない。たがいに顔を合わせるの、たまたま乗り合わせたエレベーターの中でだけ、ということになる。たがいに見るか見ないかのいずれかになり、「見ぬふりをして見る」という⁽⁶⁾グレイな関係が困難になる。

〔出典：鷲田清一『〈ひと〉の現象学』筑摩書房（一部を改編）〕

【問題1】

下線部(1)(4)、子供が「自然に育つ」「勝手に育つ」という観点と、下線部(3)、子供を「育てる」という観点、これら対照的な2つの観点をを用いて、現代の家庭教育や学校教育の問題について、あなたの考えを400字程度で論じなさい。

〔40%〕

【問題 2】

下線部(2)「見て見ぬふりをする」と「見ぬふりをして見る」では、2つの言葉が対比されている。これと同じような言葉の対比「〇〇して〇〇しないふりをする」と「〇〇しないふりをして〇〇する」を考え出さない(この対比を、作文の冒頭に示さない)。そして、それを契機として、あなたの考えを、200字程度で論じなさい。

[20%]

【問題 3】

下線部(5)「グレイゾーン」、下線部(6)「グレイな関係」の必要性や有効性について、「家族」と「教育」以外の問題について、400字程度で論じなさい。

[40%]

【注意事項】

1. 1行30字で書きなさい。句読点は字数に含める。
2. 所定の用紙に、横書きで書くこと。
3. 普通体・常体・「だ、である」体で書くこと。
4. 要求した字数と形式を守らない場合は、大きく減点するので、注意すること。

※ 注意：1. 考生須在「彌封答案卷」上作答。

2. 本試題紙空白部份可當稿紙使用。

3. 考生於作答時可否使用計算機、法典、字典或其他資料或工具，以簡章之規定為準。